

# 「元」切り下げ大シで円は売られ放題

●日本が一番恐れている中国の人民元の切り下げは当面ない。それを強行しても中国が得するものは何もないからアジア情勢が落ち着くまで切り下げをやらないだろう

## 「元」切り下げ大シ

これがゴールドシュタイン氏の第1の指摘だ。言うまでもなく、日本の急激な円安はヨレヨレのアジア経済を一段と弱らせている。中国も輸出競争力の低下から、「元」の切り下げに踏み切らざるを得ない状況に追い込まれているという観測がしきりだ。

そのため、宮沢蔵相や大蔵省は「これ以上の円安は中国の通貨切り下げにつながるから危険だ」と、市場に警告を発している。中国の「通貨危機」がある意味で日本の円安の防波堤になっている形だ。

国政府が持っているので、その中国は国の借金が1300億ドルなのに対して、外貨準備高が1400億ドルあります。さらに今年上半期だけの貿易収支を見ても200億ドルの黒字になっている。どうして元を切り下げて借金を増やす政策をとる必要があるのか。タイや韓国は国際収支が2年、3年と連続で赤字になり、外貨もなかった。そのため市場に翻弄されて通貨急落に追い込まれましたが、中国は根本から事情が違うのです。市場関係者の元切り下げの観測や発言は投機的な思惑にすぎず、まったくナンセンスですよ」(横浜市立大教授・矢吹晋氏「現代中国論」)

これが専門家の見方なのである。となると、円は「防波堤」をなくし、気兼ねなく売られることになるが、どうなのか。

しかし、ゴールドシュタイン氏は、元の切り下げは当面ないと断言している。

「その見方は正解です。元の切り下げは絶対にありません。まず中国通貨は自由化されていないため、国際市場の動き、思惑は関係ない。通貨政策の決定権は中